

富山高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	日本語と文化	
科目基礎情報							
科目番号		0178		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		国際ビジネス学科		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		プリントを配布					
担当教員		近藤 周吾					
到達目標							
演劇作品について、物語の読解だけではなく、舞台装置、照明、衣裳、音楽、小道具、俳優の身体の効果など、基本的な演劇の知識を習得する。また様々な演劇のジャンルに触れることで日本文化を知り、また我々が生きる時代や社会と芸術との関連について学んでいく。加えて作品に対する自分の考察、分析、調査等を書く力および議論するスキルも身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		演劇の基本的な知識を十分に身につけている。		演劇の基本的な知識を身につけている。		演劇の基本的な知識を身につけていない。	
評価項目2		作品について、読解、考察する力が十分にある。		作品について、読解、考察する力がある。		作品について、読解、考察する力がない。	
評価項目3		文章や口頭で自分の考えや調査を十分に表現できる。		文章や口頭で自分の考えや調査を表現できる。		文章や口頭で自分の考えや調査を表現できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この講義では、主として演劇（舞台芸術）について学んでいく。演劇は舞台装置、照明、衣裳、音楽、小道具…そして俳優の身体を通して物語世界が舞台上にあらわれるところに面白さがある。このような演劇の特徴を知り基本的な知識を深めながら、作品を読解・鑑賞していく。加えて作品に対する自分の考えを書く力、議論するスキルも養っていく。					
授業の進め方・方法		最初に演劇（舞台芸術）について基本的な知識を講義する。その後、いくつかの作品を鑑賞し、それについて観劇レポートを書く。受講者たちのレポートを共有することで、様々な考えがあることを理解しながら作品および演劇の理解を深めていく。					
注意点		できれば実際に演劇を鑑賞してみてください。なお、状況に応じて、受講生と相談のうえ、授業内容を変更する可能性があります。ご了承ください。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業の概要を理解する		
		2週	演劇とは何か 1		日本における演劇や劇場の実状を知る		
		3週	演劇とは何か 2		他の芸術と比較して演劇の特徴を知る		
		4週	演劇とは何か 3		日本にある多様な演劇のジャンルを知る		
		5週	落語を鑑賞する		春風亭一之輔の落語を鑑賞する		
		6週	落語について		落語の基本的な知識を習得するとともに、作品を理解する		
		7週	90年代の演劇を鑑賞する		三谷幸喜の演劇を鑑賞する		
		8週	現代演劇について		現代演劇の基本的な知識を習得するとともに、作品を理解する		
	2ndQ	9週	歌舞伎を鑑賞する		野田秀樹の歌舞伎を鑑賞する		
		10週	歌舞伎について		歌舞伎の基本的な知識を習得するとともに、作品を理解する		
		11週	宝塚を鑑賞する		「ベルサイユのばら」を鑑賞する		
		12週	宝塚について		宝塚の基本的な知識を習得するとともに、作品を理解する		
		13週	近代能楽集を鑑賞する		三島由紀夫の近代能を鑑賞する		
		14週	能について		能の基本的な知識を習得するとともに、作品を理解する		
		15週	ディスカッション		討論を通じて、これまでの振り返りを行う。		
		16週	期末試験（レポート）		理解度・到達度をレポート形式の試験により行う。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3		
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3		
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		

				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	40	30	0	100
基礎的能力	15	0	0	20	15	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	15	0	0	20	15	0	50